

# I 調査結果の概要

## 1 平成24年産花きの作付（収穫）面積及び出荷量の動向

作付（収穫）面積は、切り花類で1万5,550ha、球根類で472ha、鉢ものの類で1,798ha、花壇用苗ものの類で1,568haとなっており、前年産に比べて切り花類、球根類、鉢ものの類でそれぞれ230ha（1％）、6ha（1％）、35ha（2％）減少した一方、花壇用苗ものの類で9ha（1％）増加した。

出荷量は、切り花類で40億6,900万本、球根類で1億2,660万球、鉢ものの類で2億4,730万鉢、花壇用苗ものの類で7億1,450万本となっており、前年産に比べて切り花類、球根類、鉢ものの類でそれぞれ9,500万本（2％）、740万球（6％）、660万鉢（3％）減少した一方、花壇用苗ものの類で590万本（1％）増加した。

表1 平成24年産花きの類別作付（収穫）面積及び出荷量（全国）

類別	作付（収穫） 面積	出荷量	対前年産比	
			作付（収穫） 面積	出荷量
	ha	万本（球・鉢）	%	%
切り花類	15,550	406,900	99	98
球根類	472	12,660	99	94
鉢ものの類	1,798	24,730	98	97
花壇用苗ものの類	1,568	71,450	101	101

注：1 本年産は主産県を対象に実施しており、全国値については主産県の結果を基に推計した（以下の表について同じ。）。

2 球根類及び鉢ものの類は、収穫面積である。

3 出荷量の単位は、切り花類及び花壇用苗ものの類が万本、球根類が万球、鉢ものの類が万鉢である。

## 2 類別・品目別の作付（収穫）面積及び出荷量の動向

### (1) 切り花類

作付面積は1万5,550haで、前年産に比べて230ha（1％）減少した。品目別にみると、アルストロメリアが増加したものの、カーネーション、ゆり、切り葉等が減少した。

出荷量は40億6,900万本で、前年産に比べて9,500万本（2％）減少した。品目別にみると、カーネーション、ばら、ゆり、切り葉等が減少した。

なお、品目別にみた出荷量の構成割合は、きくが39％、カーネーションが8％、ばらが7％となっており、この3品目で全体の5割超を占めている。

図1 切り花類の作付面積と出荷量の推移

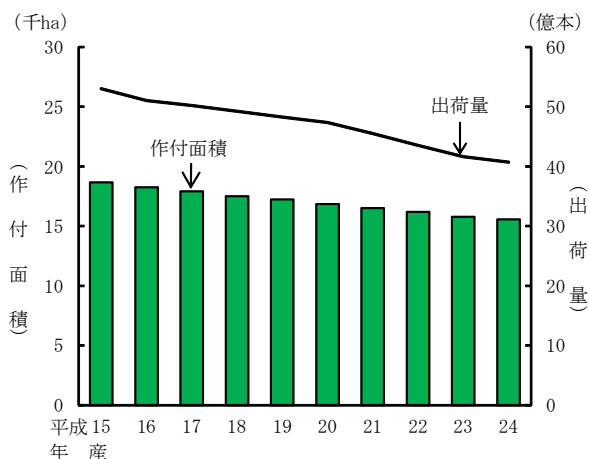


図2 切り花類の品目別出荷量割合

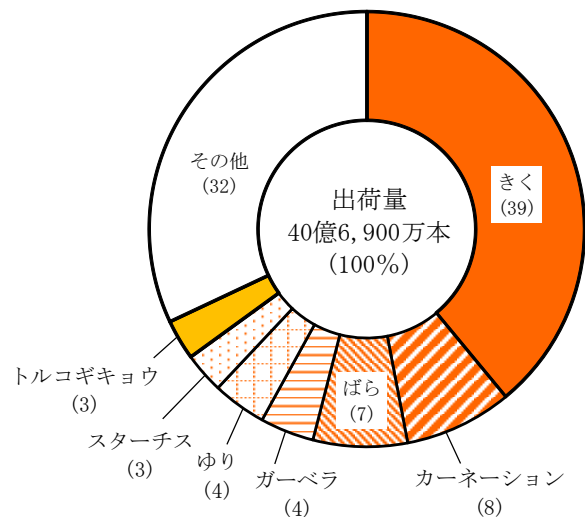


表2 平成24年産切り花類の作付面積及び出荷量(全国)

品 目	作 付 面 積	出 荷 量	対 前 年 産 比	
			作 付 面 積	出 荷 量
	ha	万本	%	%
切 り 花 類	15,550	406,900	99	98
う ち き	5,230	159,500	100	100
う ち 輪 ぎ 小 ぎ	2,761	87,030	100	100
ス プ レ イ ぎ	741	25,390	99	101
カ ー ネ ー シ ョ ン	1,727	47,050	100	98
ば ら	367	31,430	97	95
宿 根 か す み そ う	409	28,770	98	96
洋 ラ ン 類	251	5,940	99	101
ス タ ー チ ス	157	1,970	98	99
ガ ー ベ ラ	212	12,520	99	102
ト ル コ ギ キ ヨ ウ	92	16,170	98	98
ゆ り	435	10,190	99	101
ア ル ス ト ロ メ リ ア	805	14,890	97	96
切 り 葉	93	6,310	102	102
切 り 枝	713	14,650	96	95
	3,703	21,790	100	102

注：切り花類の値は、表章されている内訳品目以外の品目を含んだ合計値である。

ア きく

作付面積は5,230ha、出荷量は15億9,500万本で、ともに前年産並みであった。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、愛知県が29%、沖縄県が17%、鹿児島県及び福岡県が7%となっており、この4県で全国の6割を占めている。

また、品目別にみた出荷量の構成割合は、輪ぎくが55%、小ぎくが29%、スプレイぎくが16%となっている。

図3 きくの都道府県別出荷量割合

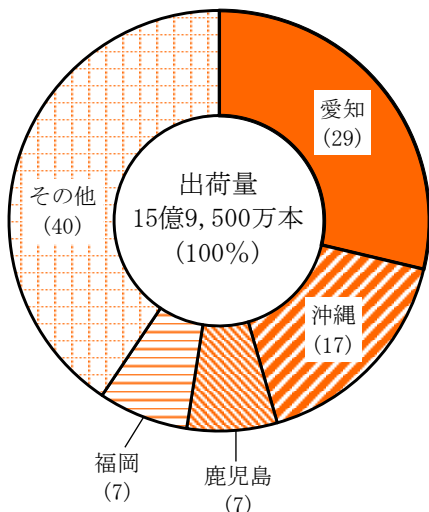


図4 きくの品目別出荷量割合

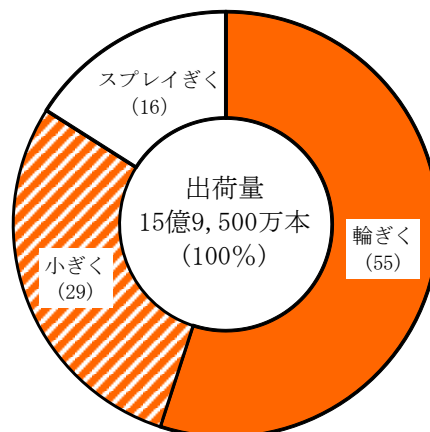


図5 きくの作付面積と出荷量の推移

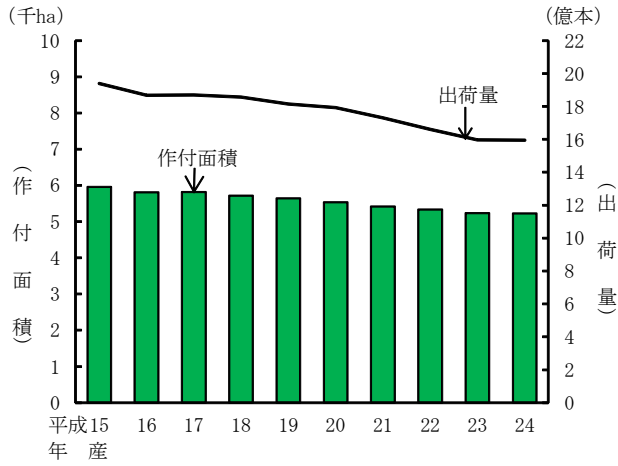


図6 輪ぎくの作付面積と出荷量の推移

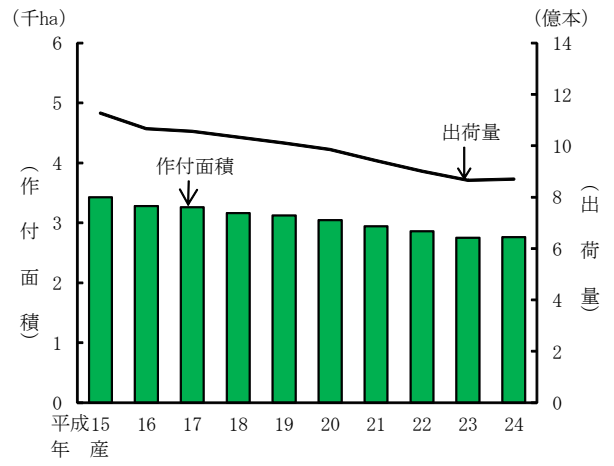


図7 スプレイぎくの作付面積と出荷量の推移

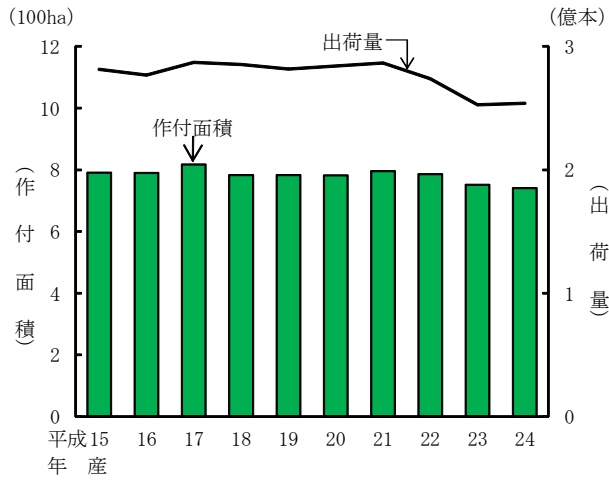
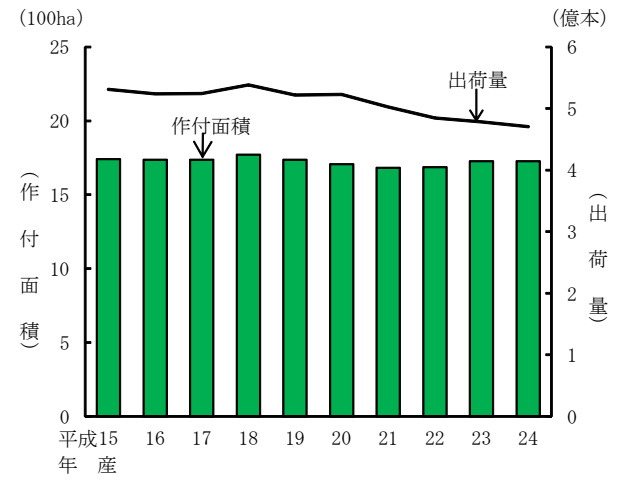


図8 小ぎくの作付面積と出荷量の推移



## イ カーネーション

作付面積は367haで、前年産に比べて11ha（3%）減少した。これは、燃油価格の高騰に伴う規模の縮小、他品目への転換等による。

出荷量は3億1,430万本で、前年産に比べて1,690万本（5%）減少した。これは、作付面積の減少、夏期の高温による生育不良、病害の発生等による。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、長野県が19%、愛知県が17%、兵庫県が12%、北海道が10%、千葉県が8%、長崎県が6%となっており、この6県で全国の7割超を占めている。

図9 カーネーションの都道府県別出荷量割合

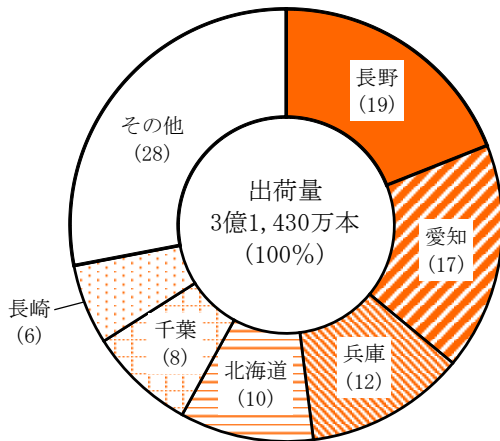
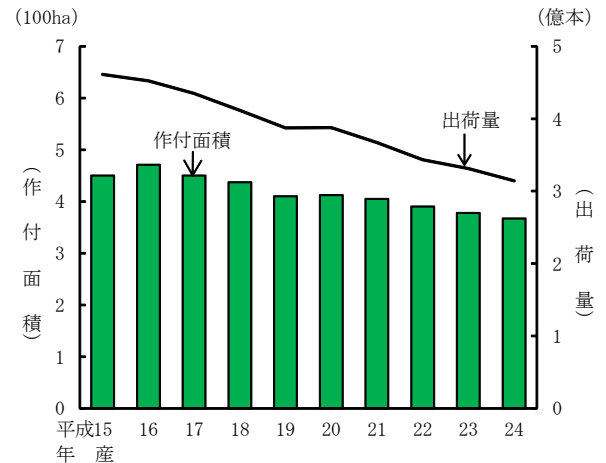


図10 カーネーションの作付面積と出荷量の推移



## ウ ばら

作付面積は409haで、前年産に比べて10ha（2%）減少した。

出荷量は2億8,770万本で、前年産に比べて1,270万本（4%）減少した。これは、作付面積の減少、燃油価格の高騰に伴う加温抑制の影響等による。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、愛知県が18%、静岡県が8%、福岡県が7%、山形県が6%、神奈川県が5%となっており、この5県で全国の4割超を占めている。

図11 ばらの都道府県別出荷量割合

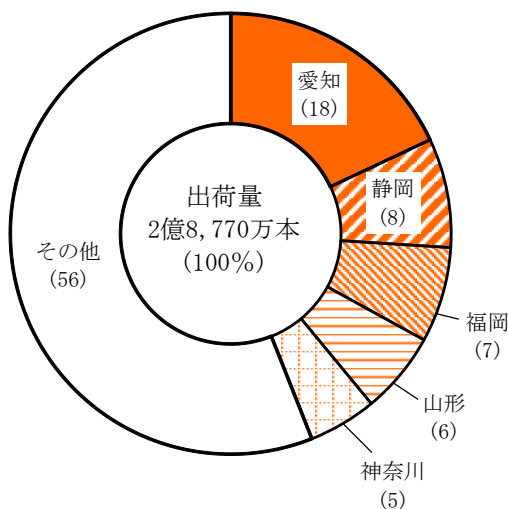
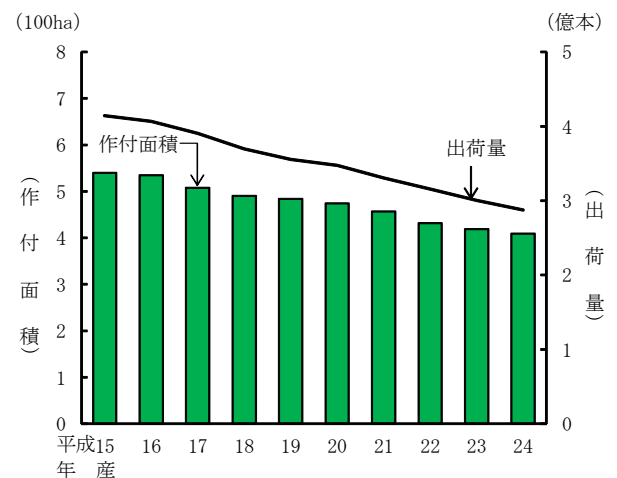


図12 ばらの作付面積と出荷量の推移



## エ トルコギキョウ

作付面積は435haで、前年産に比べて4ha（1%）減少した。

出荷量は1億190万本で、前年産に比べて90万本（1%）増加した。これは、作付面積はやや減少したものの、夏場の気温が高めで推移したため2番花の生育も良好で面積当たりの出荷量が増加したこと等による。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、長野県が14%、熊本県が10%、福岡県が9%、北海道及び静岡県が6%、山形県、高知県及び福島県が5%となっており、この8県で全国の6割を占めている。

図13 トルコギキョウの都道府県別出荷量割合

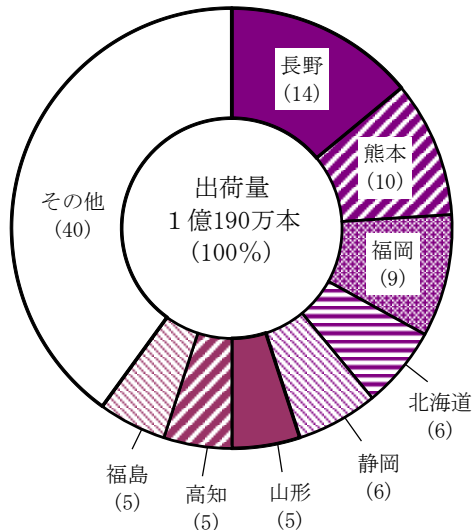
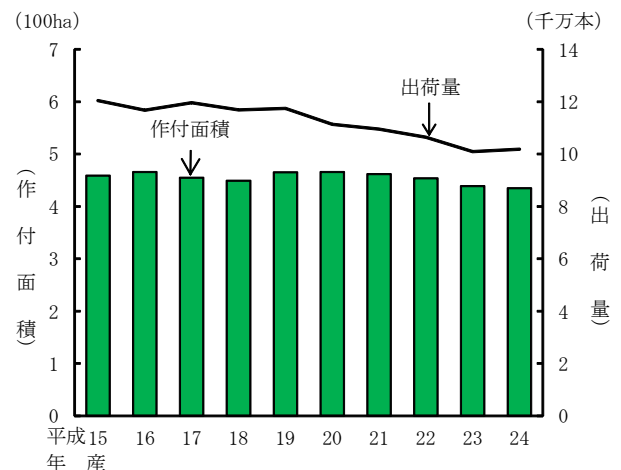


図14 トルコギキョウの作付面積と出荷量の推移



## オ ゆり

作付面積は805haで、前年産に比べて28ha（3%）減少した。これは、燃油価格の高騰に伴う規模の縮小、他の品目への転換等による。

出荷量は1億4,890万本で、前年産に比べて610万本（4%）減少した。これは、作付面積の減少及び春先の低温の影響等による。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、埼玉県が19%、高知県が12%、新潟県が11%、鹿児島県及び千葉県が6%、福岡県及び北海道が5%となっており、この7県で全国の6割超を占めている。

図15 ゆりの都道府県別出荷量割合

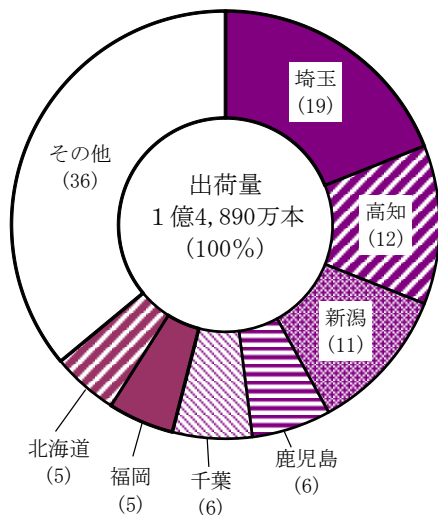
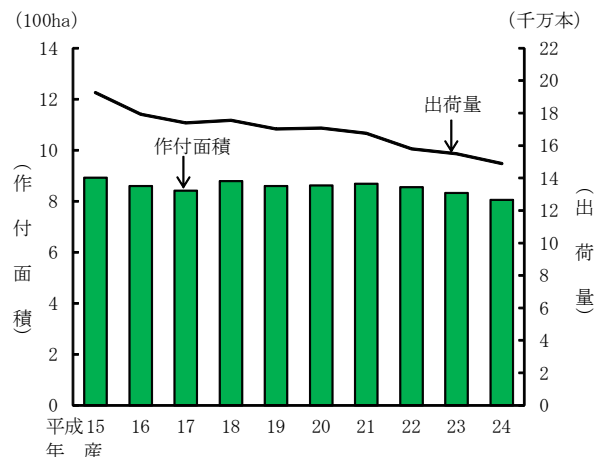


図16 ゆりの作付面積と出荷量の推移



(2) 球根類

収穫面積は472haで、前年産に比べて6 ha（1%）減少した。

出荷量は1億2,660万球で、前年産に比べて740万球（6%）減少した。これは、収穫面積の減少、春先の低温による生育抑制等による。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、鹿児島県が23%、新潟県が19%、富山県が16%、愛媛県が12%、宮崎県及び茨城県が6%となっており、この6県で全国の8割超を占めている。

図17 球根類の都道府県別出荷量割合

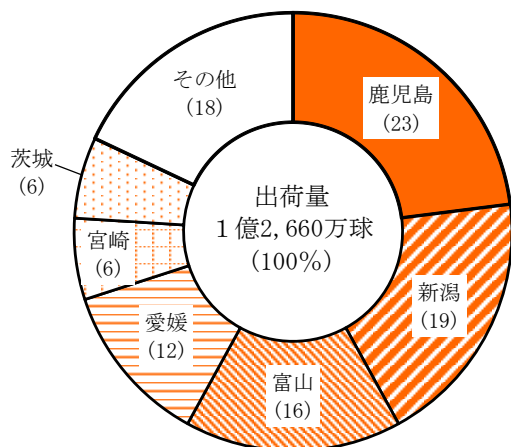
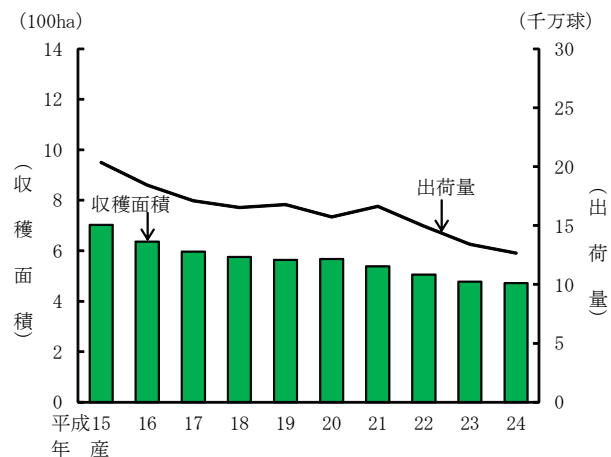


図18 球根類の収穫面積と出荷量の推移



### (3) 鉢ものの類

収穫面積は1,798haで、前年産に比べて35ha（2%）減少した。品目別に見ると、観葉植物が増加したものの、洋ラン類及び花木類が減少した。

出荷量は2億4,730万鉢で、前年産に比べて660万鉢（3%）減少した。

なお、品目別にみた出荷量の構成割合は、花木類が21%、観葉植物が19%、シクラメンが8%、洋ラン類が7%となっており、この4品目で全体の約6割を占めている。

表3 平成24年産鉢ものの類の収穫面積及び出荷量(全国)

品目	収穫面積	出荷量	対前年産比	
			収穫面積	出荷量
	ha	万鉢	%	%
鉢ものの類	1,798	24,730	98	97
うちシクラメン	207	2,020	100	99
洋ラン類	225	1,700	97	99
観葉植物	325	4,610	101	103
花木類	439	5,310	99	99

注：鉢ものの類の値は、表章されている内訳品目以外の品目を含んだ合計値である。

図19 鉢ものの類の品目別出荷量割合

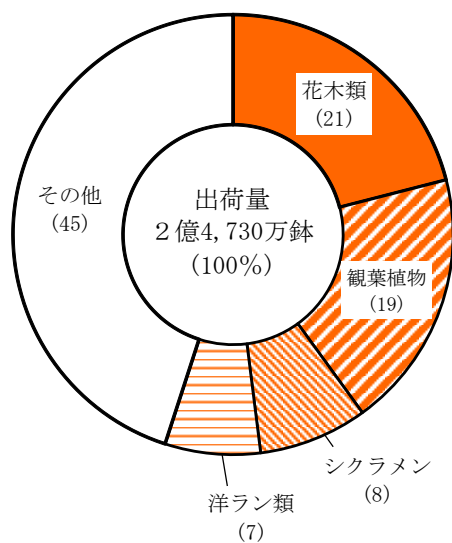
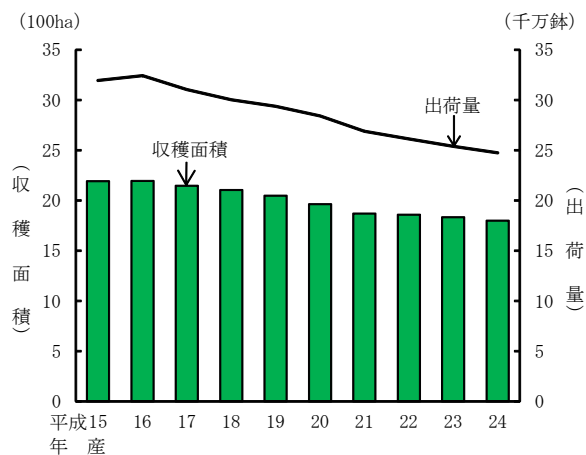


図20 鉢ものの類の収穫面積と出荷量の推移





## ア シクラメン

収穫面積は207haで、前年産並みであった。

出荷量は2,020万鉢で、前年産に比べて20万鉢（1%）減少した。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、長野県が14%、愛知県が11%、茨城県、栃木県及び千葉県が6%、北海道が5%となっており、この6県で全国の約5割を占めている。

図21 シクラメンの都道府県別出荷量割合

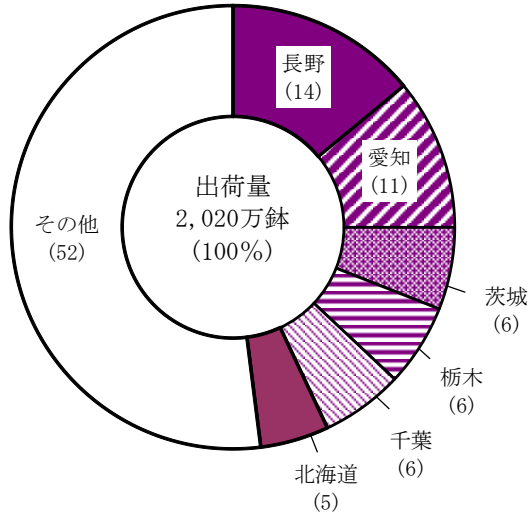
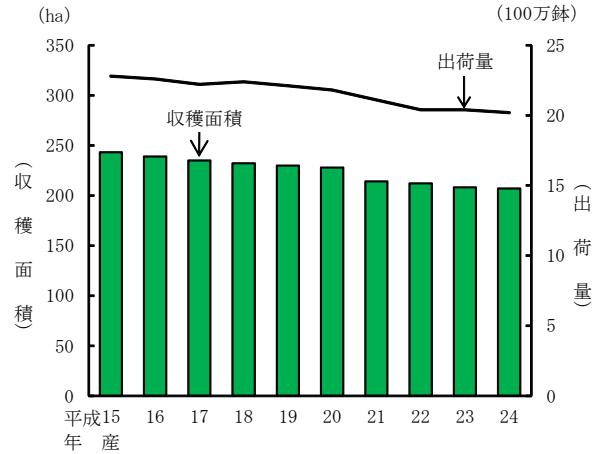


図22 シクラメンの収穫面積と出荷量の推移



## イ 洋ラン類

収穫面積は225haで、前年産に比べて7ha（3%）減少した。これは、燃油価格の高騰に伴う規模の縮小、他の品目への転換等による。

出荷量は1,700万鉢で、前年産に比べて20万鉢（1%）減少した。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、愛知県が23%、熊本県及び福岡県が10%、静岡県、埼玉県及び山梨県が5%となっており、この6県で全国の約6割を占めている。

図23 洋ラン類の都道府県別出荷量割合

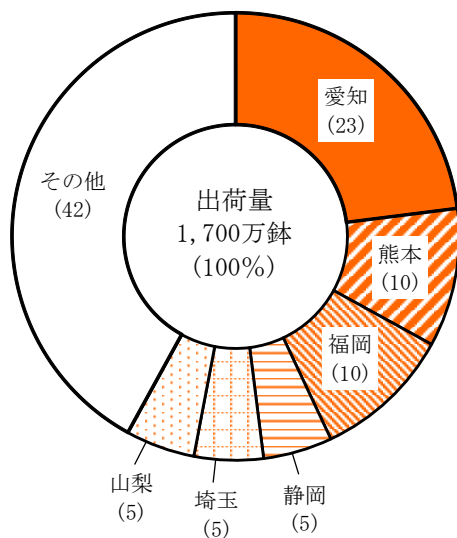
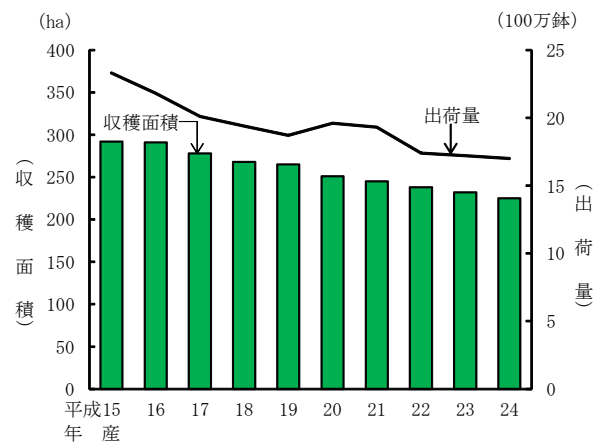


図24 洋ラン類の収穫面積と出荷量の推移



(4) 花壇用苗もの類

作付面積は1,568haで、前年産に比べて9ha（1%）増加した。

出荷量は7億1,450万本で、前年産に比べて590万本（1%）増加した。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、愛知県が9%、千葉県が8%、埼玉県が7%、福岡県及び奈良県が5%となっており、この5県で全体の3割超を占めている。

表4 平成24年産花壇用苗もの類の作付面積及び出荷量(全国)

品 目	作 付 面 積	出 荷 量	対 前 年 産 比	
			作 付 面 積	出 荷 量
	ha	万本	%	%
花 壇 用 苗 も の 類	1,568	71,450	101	101
う ち パ ン ジ ー	306	15,170	98	95

注：花壇用苗もの類の値は、表章されている内訳品目以外の品目を含んだ合計値である。

図25 花壇用苗もの類の都道府県別出荷量割合

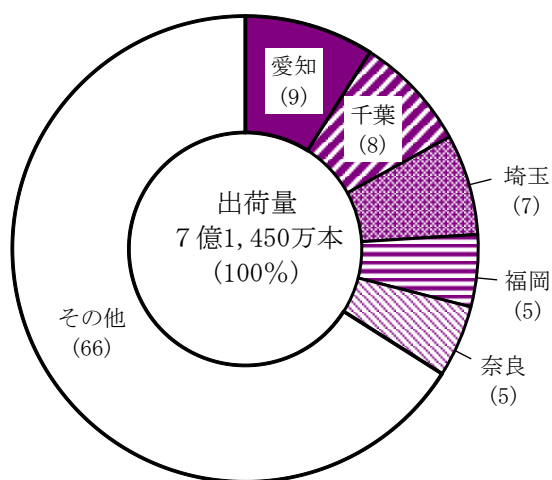
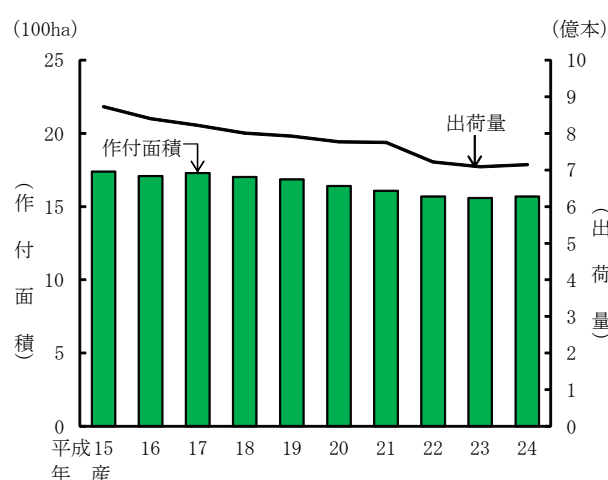


図26 花壇用苗もの類の作付面積と出荷量の推移



このうちパンジーについては、作付面積は306haで、前年産に比べて7ha（2%）減少した。

出荷量は1億5,170万本で、前年産に比べて770万本（5%）減少した。これは、作付面積の減少、夏期の高温による発芽不良等による。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、埼玉県、奈良県及び神奈川県が7%、愛知県が6%、千葉県及び茨城県が5%となっており、この6県で全体の約4割を占めている。

図27 パンジーの都道府県別出荷量割合

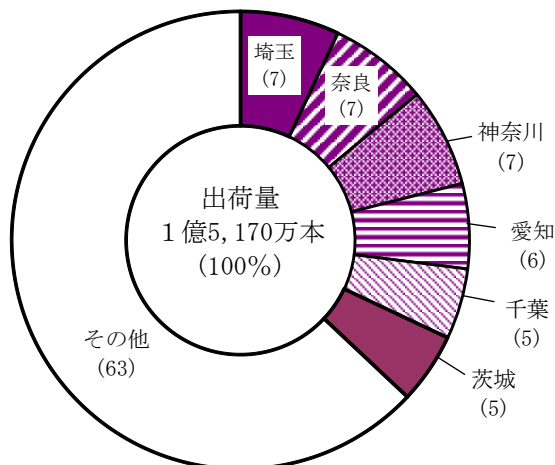


図28 パンジーの作付面積と出荷量の推移

